

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

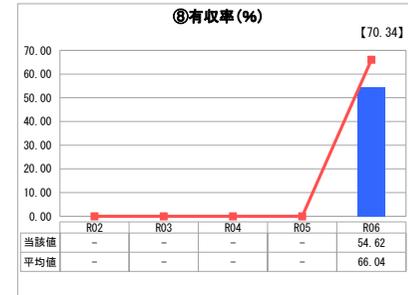
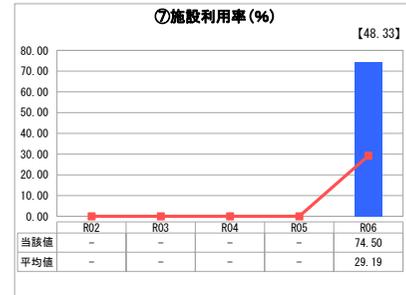
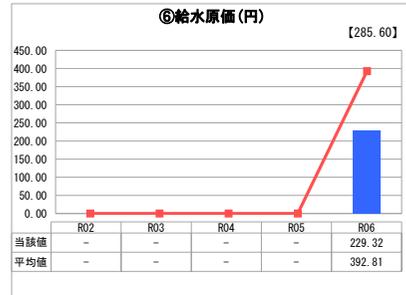
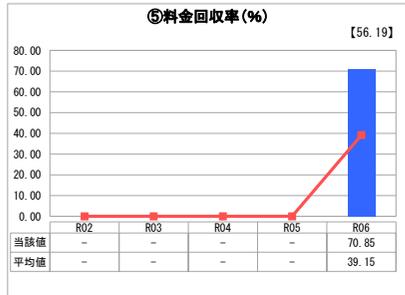
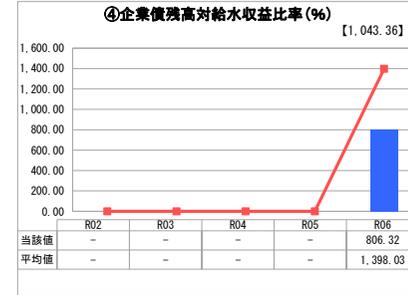
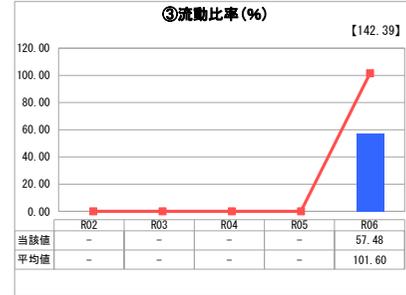
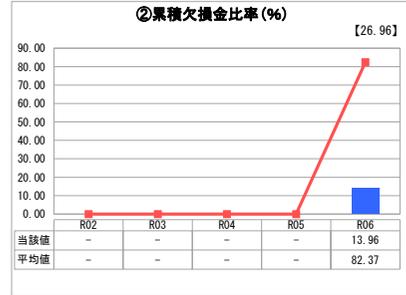
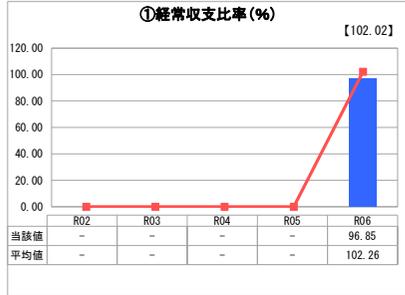
岡山県 西栗倉村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C4	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	68.91	99.70	3,300	

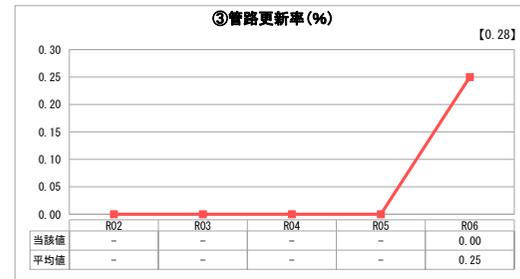
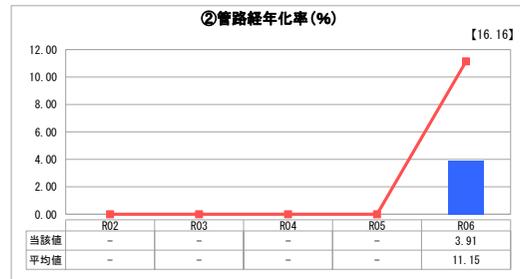
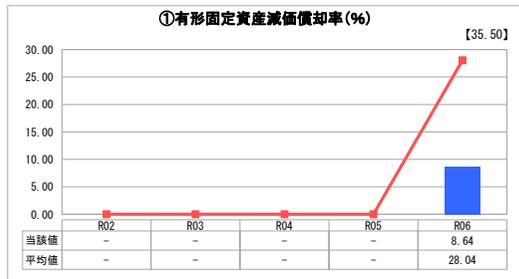
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,331	57.97	22.96
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,309	0.61	2,145.90

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

本事業は、収益的収支において収入不足が生じているため、収益的収入の7.4%を一般会計からの基準外繰入金により補填している状況であり、事業単体で収支均衡を確保できていない点が課題である。

収益的収入の内訳は、使用料等が29.0%にとどまる一方、長期前受金が62.4%を占めており、会計上の収益として損益を下支えする反面、現金収入の増加には直結しにくい構造となっている。加えて、基準内繰入が1.2%に対し基準外繰入が相対的に大きいことから、一般会計への依存度が高く、将来的な財政状況の変化により事業運営が影響を受けやすい懸念がある。

費用面では給水原価が低水準であり、運転維持管理の効率性は一定程度確保されているが、有収率が54.6%と低水準であり、供給した水量のうち料金収入として回収できていない割合が大きいことが、料金回収率の低下や維持管理費用の増加等の要因となっている。

このため、経営健全化に向けては、費用抑制のみならず、漏水等による無収水の削減の取組を優先課題とし、有収率の向上を図る必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

管路の老朽化については、現在の管路経年化率が8.3%であるものの、2028年には約50%、2034年には約91%に達する見込みであり、今後数年間で耐用年数を超過する管路が増加することを想定している。

管路の経年化が進行すると、漏水増加等のリスクが高まり、修繕費等の維持管理費の増加を通じて収益率の低下が懸念される。また、更新投資が後倒しとなるほど、更新単価の上昇や応急対応等の増加により、事業運営上の負担が拡大する可能性がある。このため、将来の更新需要を見据え、早急に計画的かつ平準化した更新投資を進めることが不可欠と考えている。

### 全体総括

今後の経営改善にあたっては、

- ①漏水対策等による有収率の向上を図る
- ②更新需要が集中する時期を見据え、更新投資の計画的な実施と平準化を進める
- ③使用料・一般会計負担金（補助金）・企業債・補助金等の財源構成について、中長期的な視点で計画を行う

これらを一体的に推進していく必要がある。あわせて、重要施設への供給ルート等を踏まえた断水リスク管理等の観点も取り入れ、将来にわたり安定した給水体制の確保と、持続可能な事業運営の実現を図りたい。